

TPDS NEWS



※ TPDS = Tokyo Plastic Dental Society = (一社) 東京形成歯科研究会

Vol.30

配信日：2021年8月25日

配信元：(一社) 東京形成歯科研究会 事務局

施設長ワンポイントアドバイス

最近ネットや情報で下記のようなコマーシャルが存在しているが、この内容を分析してみたい。

最近目に触れる下記の内容についてコメント

インプラントをやめた歯科医師、その理由が…

インプラントをやめた理由…それはリペアできる技術がないと思ったから。

例えば、

高齢の患者さんにインプラントを入れた。でも、認知症を患い、セルフケアはおろか歯磨きすらできない…では、訪問でとなるが、自院の環境が整っていない…責任をもって最後まで寄り添えないことに気づいた彼は、インプラントをやめました。

リペアできる技術がないと言い切るのは疑問

彼の名前は、青島徹児。ダイレクトボンディングの分野で大きな影響を与えるドクター。

なぜ、彼は、ダイレクトボンディングにのめり込むようになったのか？それは、最初から最後まで患者さんと向き合う治療だから。

これだけでは何とも言えず、簡素安易だけですべて患者が満足できるか？

そして、それを支えるのがコンポジットレジン。限界はあるけど、

セラミックなどとは違って、同じ材料でリペアができます。むしろ、唯一の材料。

唯一は言い過ぎではないか

最低限の削合で患者さんの歯を守り、リペアありきのダイレクトボンディング。信念に基づいた診療で患者さんからの信頼も厚く、特に何かやったわけでもないのに自費率は8割だそうです。

これらは、すべて納得解釈は疑問。多数欠損の処置は？

地域密着型サービスの歯科医院経営は、患者さんと長い付き合いがキモ。そして、これから益々、「削らない治療」が求められるでしょう。

この材料方法で言い切ることはできない、

1人の患者さん、1本の歯に最後まで寄り添うとしたら、青島先生のようにダイレクトボンディングに力を入れてみてはどうでしょうか？

この材料方法で言い切ることはできない

もし、「とはいえ、難しそう…」と思われたなら、・材料選択・シェードテイキング・前歯、臼歯の具体的テクニックこれらすべて青島先生が培ってきた技術・知識を「大全」と呼ぶにふさわしい内容でプログラム化しました。

従来から行われているコンポジットレジンによる処置は選択肢の一つでありすべてではない。すなわちインプラントをやめ理由にはならない。インプラントは骨などに生理的な影響もある。

ただ、現在、SNS で拡散され大反響となっているため、在庫が少なくなっています。お早めにご確認ください…

誇大広告精神誘導に注意を！！

参考

公益法人日本口腔インプラント学会
認定研修 令和元年初講

東京形成歯科研究会社会歯科講義
共に社会に歩むために

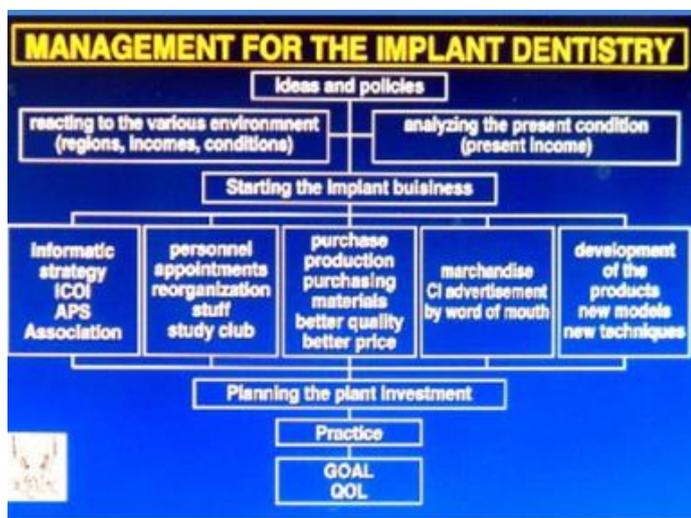
施設長 会長 奥寺 元
社会歯科基本的精神理念

歯科医療費の現状から
新しい医療分野を考える

ある論文からインプラント臨床を批判を考える

日本歯科医師会雑誌2010VOL.62.NO.10掲載の
部分義歯床義歯を考える
インプラント治療が第一選択かの
疑問に答える

○奥寺元¹⁾、小嶋架²⁾、古澤利武³⁾
OKUDERAH¹⁾、KOJIMA E²⁾、FURUSAWA T³⁾
東京形成歯科研究会¹⁾、小嶋歯科クリニック²⁾、古澤歯科医院³⁾
Tokyo Plastic Dental Society (Tokyo)¹⁾、
Kojima Dental Clinic (Tokyo)²⁾、Furusawa Dental Clinic
(Miyagi)³⁾



患者獲得におけるコマーシャルとその問題点

広告コマーシャルの制限がある
広告コマーシャルは濡れ手に粟の商売
美容外科は収入の70%は広告
中途半端はどぶに捨てる事になる
効果があっても一時的で風化
他人が行っている宣伝に迷わされる事なかれ
最大の効果は診療に対する自信と自ら学術を根拠に
プロパー（伝道師）になることが一番
ラポールの形成とムンテラを駆使する